

## ステークホルダーの皆様へ

### 北尾吉孝

代表取締役執行役員CEO

#### プロフィール

- 1951年：兵庫県生まれ
- 1974年：慶應義塾大学経済学部卒業後、  
野村證券(株)に入社
- 1978年：英国ケンブリッジ大学経済学部を卒業
- 1989年：ワッサー・スタイン・ペレラ・インターナショナル社  
(ロンドン)常務取締役
- 1991年：野村企業情報(株)取締役(兼務)
- 1992年：野村證券(株)事業法人三部長
- 1995年：孫正義氏の招聘によりソフトバンク(株)入社  
(常務取締役管理本部長)
- 2005年：SBIホールディングス(株)代表取締役執行役員  
CEOとして現在に至る

SBIグループは、主力のネット証券事業に加えて、ネット銀行・ネット保険事業を本格稼働し、世界的にもユニークな「インターネットを中心とした金融コングロマリット」としての体制を確立いたしました。今後も真の金融ワンストップサービスを志向し、金融コングロマリット体制内においてグループシナジーを極大化させ、一層力強い成長を目指してまいります。

### 2009年3月期の総括

2009年3月期は、米国サブプライム・ローン問題に端を発した世界的な金融経済の混乱を受け、2008年秋以降の国内景気情勢は急激な悪化を見せるなど、極めて厳しい経済環境となりました。このような非常に厳しい環境下において、SBIホールディングスの連結業績は、収益の柱であるアセットマネジメント事業やSBI証券を主体とするブローカレッジ&インベストメントバンキング事業が相場環境の悪化による影響を大きく受けたことや、株式市況低迷による有価証券評価損等の計上などを背景に、売上高は1,309億22百万円(前期比41.2%減)、営業利益は44億3百万円(前期比89.7%減)、経常利益は37百万円(前期比99.9%減)、当期純損益は183億75百万円の損失となりました。

なお、評価損・引当金等は合計で147億円を計上いたしておりますが、これは主に、ネット銀行を共同で手がけていることから株式を相互に

保有している住友信託銀行株式に対する投資有価証券評価損67億円、ゼファー向け貸付金の引当金24億円、ブロードメディアに対する持分法投資損失13億円などを計上したもので、これらが当期純損失計上の大きな要因となりました。

しかしながら、このたびの未曾有の市場環境下においても、主要事業部門であるアセットマネジメント事業、ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業、ファイナンシャル・サービス事業、住宅不動産関連事業は、いずれも営業黒字を確保するなど、各事業が収益を確保できる体制を確立いたしております。また、住信SBIネット銀行は、2009年1月には開業後わずか1年4ヵ月で初の単月黒字を達成し、2009年3月期第4四半期(2009年1~3月)には四半期ベースでも初の黒字化を達成したほか、SBIリクイディティ・マーケットは、国内FX取引の活況などを背景に、2008年11月の営業開始から5ヵ月間という短期間で連結営業利益に26億円

の貢献をするなど、新規事業の一部が早くも収益に寄与し始めております。

財務面におきましては、連結ベースで2009年3月期末の自己資本比率が32.8%と前期末(19.8%)より改善したほか、2009年3月期に合計1,059億円の社債を償還したことなどにより有利子負債比率も37.1%と前期末(101.0%)より改善いたしました。また、現預金残高については1,271億円(前期末1,602億円)と引き続き高水準を維持しており、証券会社特有の資産・負債勘定の影響で総資産が膨らんでいるにもかかわらず、十分な財務健全性を確保しております。

配当金につきましては、当社はこれまで、グループ企業を含めた連結業績及び当社株価の状況等を総合的に勘案した上で剰余金の配当等を実施することを基本方針としており、この方針に則って2009年3月期の年間配当は1株当たり100円を実施いたしました。

なお2010年3月期以降につきましては、業績に連動した利益配分の水準をより明確にするため、連結当期純利益の20～50%を配当性向の目処とし、原則として期末配当に一本化することを基本方針といたします。

## さらなる飛躍を目指して

2010年3月期は、経営の一層の効率化を目指してグループ内組織の再編成を継続すると同時に、新たな事業の柱として2007年から2008年にかけて開業したネット銀行、ネット損保、ネット生保の三大新事業を早期育成し、グループ内企業とのシナジー効果を一層発揮させてこれら新事業の早期収益化を目指し、株式市況のみに立脚しない収益体質の構築に注力してまいります。さらに、株式市場が回復した時に収益の最大化を図るべく、これまでネット証券事業のシェア拡大に努めてまいりましたので、株式市場に明るい兆しが見え始めた今後は、一挙にビジネスを飛躍させることに注力してまいります。

海外での事業展開につきましては、2006年3月期以降、中国をはじめとした潜在成長率の高いアジア地域の新興諸国を中心に投資体制を整備し、順調に海外への投資を増やしてまいりました結果、現在では連結業績における海外の売上高が全体の10%を占めるまでになりました。今後は海外進出の第2フェーズとして、ベンチャー投資で構築した海外有力企業とのネットワーク等を活用し、ネット証券等のオンライン金融事業を海外に移出し、各国で日本と同様の金融生態系をつくり上げていくことを目指してま

います。そして、これにより「日本のSBIから世界のSBI」へと変貌を遂げ、グローバル企業としてさらなる成長を図ってまいります。

SBIグループは、世界的にも極めてユニークな「インターネット金融コングロマリット」として、ネットという非常に強力な武器を手にしながら、一層力強い成長を遂げるべく、今後も新たな事業機会に積極的に挑戦してまいります。ま

た、お客様のために、投資家の皆様のために、顧客中心主義を貫き、より革新的なサービス、ビジネスの創出に努め、顧客価値、株主価値、人材価値の総和たる企業価値の極大化を追求してまいります。

北尾吉孝 

代表取締役執行役員CEO

【主な著書】



- 「進化し続ける経営」 (英語翻訳: John Wiley & Sons, Inc.) (中国語翻訳: 清華大学出版社)
- 「Eファイナンスの挑戦I」 (中国語翻訳: 商务印书馆出版) (韓国語翻訳: Dongbang Media Co. Ltd.)
- 「Eファイナンスの挑戦II」 (韓国語翻訳: Dongbang Media Co. Ltd.)
- 「『価値創造』の経営」 (中国語翻訳: 商务印书馆出版) (韓国語翻訳: Dongbang Media Co. Ltd.)
- (以上、東洋経済新報社)
- 「不変の経営・成長の経営」 (韓国語翻訳: Dongbang Media Co. Ltd.) (中国語翻訳: 世界知識出版社)
- 「人物をつくる」 (中国語翻訳: 世界知識出版社)
- (以上、PHP研究所)
- 「君子を目指せ小人になるな」 (韓国語翻訳: Joongang Books)
- 「何のために働くのか」 (以上、致知出版社)
- 「中国古典からもらった『不思議な力』」 (中国語翻訳: 北京大学出版社) (三笠書房)
- 「時局を洞察する」 (経済界)
- 「北尾吉孝の経営道場」 (企業家ネットワーク)